

令和7年度 第1回「生徒による授業評価」報告書

1 回答数（3学年の合計）

国語	地歴	公民	数学	理科	保体	芸術	外国語	家庭	情報	課研
1970	1581	484	1018	2297	1699	355	2036	335	328	1037

2 質問項目

大項目	小項目		
	番号	質問	趣旨
授業の在り方について	1	毎時間の授業や単元（内容のまとめ）のはじめに学習のねらいを示したり、毎時間の授業や単元の学習のあとに学習したことを振り返ったりする機会がある。	「主体的な学び」に関する項目
	2	単元（内容のまとめ）の学習の中で、他者の考えを知り、自らの考えを広げ深める機会がある。	「対話的な学び」に関する項目
	3	単元（内容のまとめ）の学習の中で、課題について自分の考えをまとめたり、解決方法について考える場面がある。	「深い学び」に関する項目
学習の状況について	4	授業の中で身に付いたことや、できるようになったことを実感することができた。	「項目1」と関連の深い項目
	5	他者の考えを知ることにより、新たな考え方を知るなど、自らの考えを広げ深めることができた。	「項目2」と関連の深い項目
	6	授業で得た知識をもとに、自分の考えをまとめたり、課題の解決方法を考えたりすることができた。	「項目3」と関連の深い項目
	7	授業で学んだことをそれまでに学んだことと関連付けて理解することができた。	より高次な学びの構築に関する項目

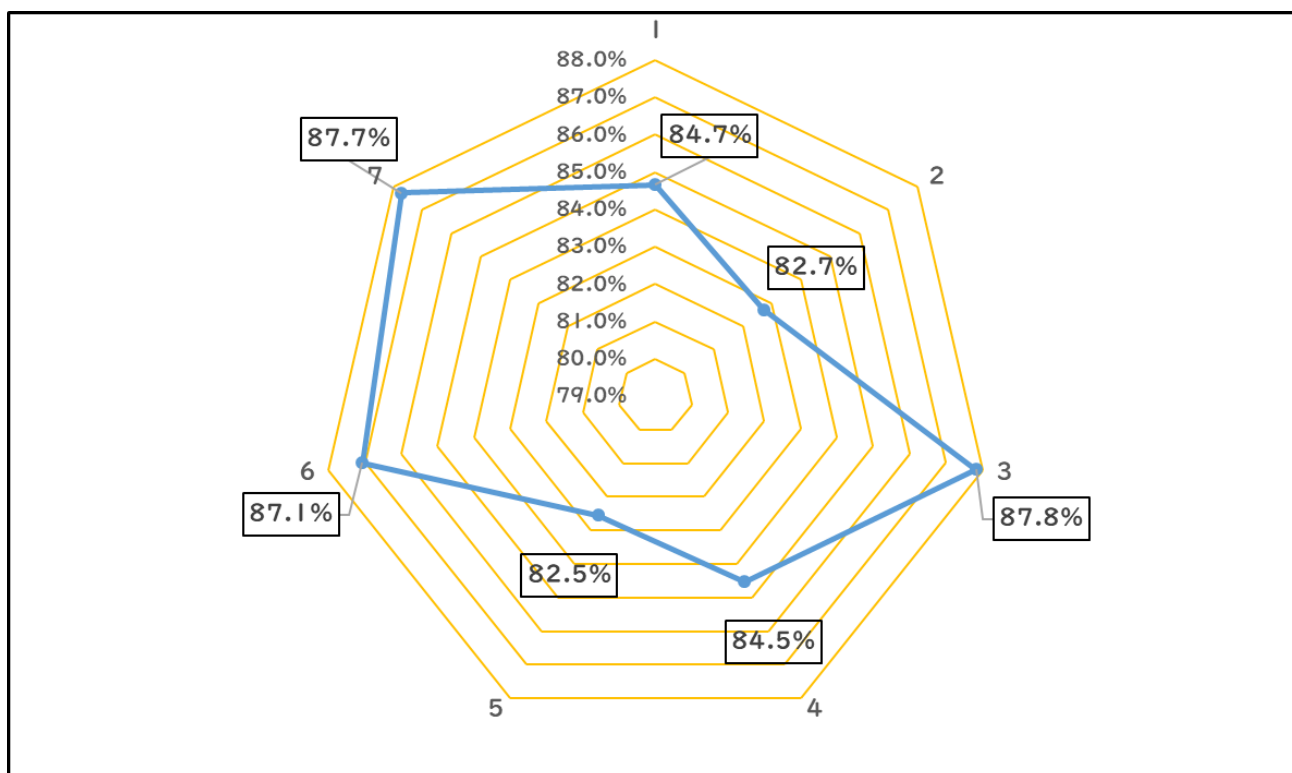
3 集計結果

(ア) 肯定的回答（「4 かなり当てはまる」「3 ほぼ当てはまる」）の割合（集計結果）

※単位は%、小数第2位を四捨五入

問	国語	地歴	公民	数学	理科	保体	芸術	外国語	家庭	情報	課研	平均
1	77.1%	83.9%	92.6%	90.2%	82.3%	90.6%	88.5%	85.9%	91.9%	84.8%	80.6%	84.7%
2	76.4%	77.7%	97.3%	89.5%	75.6%	86.9%	84.5%	90.2%	80.3%	58.8%	90.6%	82.7%
3	81.7%	82.5%	96.3%	94.4%	82.6%	92.3%	92.7%	92.0%	89.3%	79.6%	93.5%	87.8%
4	81.7%	81.7%	83.3%	92.4%	81.5%	86.8%	89.6%	88.3%	87.2%	81.4%	81.2%	84.5%
5	76.6%	81.5%	95.7%	87.8%	75.2%	86.0%	87.0%	86.9%	83.0%	66.2%	89.6%	82.5%
6	81.6%	83.9%	94.4%	92.8%	81.8%	90.7%	90.1%	90.7%	89.3%	81.7%	91.8%	87.1%
7	83.8%	90.6%	90.9%	93.1%	86.5%	86.1%	84.5%	90.4%	90.7%	81.4%	86.3%	87.7%

(イ) 肯定的回答の割合（校内平均値、レーダーチャート）



(ウ) 共通小項目の質問 3 について、「4 かなり当てはまる」の回答割合

問	国語	地歴	公民	数学	理科	保体	芸術	外国語	家庭	情報	課研	平均
3	39.5%	45.5%	67.8%	63.0%	41.0%	51.9%	47.0%	48.4%	40.0%	29.0%	58.7%	47.8%

4 分析と展望

(ア) 今年度、スーパーサイエンスハイスクール第Ⅲ期に指定されたこともあり、本校の授業改善テーマとして新たに「STEAM 教育の視点を取り入れた探究的な授業実践」を設定した。それに伴い、第 1 回については過年度比較を行わないこととした。

(イ) 肯定的な回答をした割合は、すべての質問項目で学校全体の平均 8 割を超えた。今後も、組織的な授業改善を推進していく。

(ウ) 「対話的な学び」に関連する共通小項目の質問 2 及び質問 5 への肯定的な回答の割合が、他の質問の回答割合と比較して低い傾向が見られる。後期に向けて、各教科・科目等における年間の指導計画に基づいて、「対話的な学び」を効果的に質・量ともに向上・増加するように教育活動を工夫していく。

(エ) 「深い学び」に関連する共通小項目の質問 3 について、「4 かなり当てはまる」と回答した割合は、学校全体で 47.8%であった。学力向上進学重点校における「具体的な評価の視点・水準」では、学校全体で 5 割以上が求められている。後期に向けて、より一層「単元」を意識した授業構成及び授業実践を行うとともに、「単元」の導入及びまとめの時間を確保できるように年間の指導計画を工夫していく。